

## 令和3年度 学校教育自己診断の分析・考察

### ◎学習指導等

- ・学校教育自己診断（教職員）の「授業力向上のため、工夫・改善に努めている」が肯定率 84%となり、前年度 73%から向上した。観点別評価及び生徒1人1台端末に関する研修会や研究授業を重ねて実施してきたことで、高い結果となったと考える。
- ・学校教育自己診断（生徒）の「いちばん望む授業形態」については、①高校生として基礎学力が身につく授業、②生徒に応じて授業レベルやスピードを調整する授業、③進路希望が実現できる学力を高める授業の順（①>②>③）であった。学校教育自己診断（教職員）において、授業で気を付けていることは①>②>③の順であった。ただし、生徒において③が 23%、保護者は③>①>②の順であったことに留意する必要がある。

### ◎生徒指導等

- ・学校教育自己診断（生徒）の「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」が肯定率 60%、学校教育自己診断（保護者）の「子どもが困った事や悩みがある時、先生は相談に乗ってくれる」が肯定率 70%であった。コロナ禍でストレスや不安が広がる中、カウンセリングマインドを持って、状況に応じてSC・SSWとも連携しながら、より丁寧に相談に乗っていく必要がある。
- ・学校教育自己診断（生徒）の「生活指導は先生が協力して適切に行っている」が肯定率 84%であり、生徒から理解を得て行っていると考える。

### ◎学校運営

- ・学校教育自己診断（教職員）の「緊急の課題に対して迅速な対応ができてきている」は肯定率 78%となり、概ね良好であるが、学校教育自己診断（教職員）の「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は肯定率 49%に留まった。新型コロナなど至急の対応が必要な場面が多い1年間ではあったが、各部署の連携をバランスよくとることは今後の課題である。